

2011.1月

品質月報

Monthly Quality Report

発行部署 : サンシン電気(株)・品質保証部

1月号 INDEX

PAGE 3 ……品質方針

PAGE 4 ……今月のトピックス

今月のテーマは…
落雷事故 電気管理の重要性を認識！

PAGE 5 ……今月の品質状況

12月は市場不良2件

PAGE 6 ……今月の品質状況

市場不良率推移

PAGE 7 ……品質状況詳細

市場不良発生状況(工程別、客先別)

PAGE 8 ……品質状況詳細

クレーム発生状況(クレーム発生推移、客先別)

PAGE 9 ……活動報告

安全規格申請状況
受入検査状況報告



SANSHIN GROUP



品質方針

サンシングループは、商社・開発技術・要素技術 これら3つの機能のシナジー効果と品質マネジメントシステムの効率的な運用により、お客様のニーズを満たす製品開発と安定的な製品供給をおこない、電機業界および社会へ貢献して参ります。

1. 事業活動において、いかなる場合も品質マネジメントシステムを厳守し、お客様に信頼される品質の提供につとめて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遂行を通し品質の向上につとめて参ります。
3. 各々のグループ会社および事業部において、事業活動に応じた品質マネジメントシステムの継続的な改善につとめて参ります。
4. 品質マネジメントシステムは、定期的な内部監査・マネジメントレビューをおこない、実態に沿った具体的な改善をはかって参ります。
5. この方針は文書化し、当グループのステークホルダーに対して開示をおこない、当グループの諸活動に関わるすべての人々によって一步一步、着実に具現化して参ります。

平成18年7月1日
サンシングループ
代表 石井宏宗



石井宏宗

落雷事故 電気管理の重要性を認識！

2010年7月26日19時13分、神奈川県相模原市にあるダンボール製造の東秀紙器株式会社が突然の停電に見舞われた。

停電通報はキュービクルに設置された日本T社のERIA(ESシステム)から同社の監視センターに伝わり、現場にいる電力会社への状況確認で、雷によるPAS(高圧気中開閉器)の焼損が原因と判明した。

「出先から会社に戻るとPASから煙が出ていたんです。それを見た瞬間、翌日に予定していた多くの仕事が頭をよぎり、一刻も早い復旧を願いました。急いで日本テクノさんに連絡すると、技術者が30分で到着すると言われ、待機していると本当に30分で来てくれました。」(工場長)



現場に到着した電気管理技術者は、即座に調査を開始し、落雷被害がPASのみであると特定すると、日本T社監視センターに連絡。緊急工事の手配を依頼した。監視センターでは、対応可能な協力工事事業をデータベースから検索し、交換用のPASを在庫していた協力会社に緊急工事を要請した。

工事開始は、深夜0時。翌朝の4時24分受電を再開し、復旧作業は完了した。事故翌日、機器稼動にはまったく影響がなく、通常通り業務を開始できた。「もし、業務が停止していたら、それによって失う信用は計り知れなかった。実際に事故が起こってみてはじめて、電気管理の重要性について気づかされた」と工場長は胸をなでおろした。(環境市場新聞 2011年冬季季刊より)

上記事例は、客先の早急な復旧の希望に答え、協力会社との連携により素早く対応し、客先の業務に影響を与えずに済んだというものです。

「客先の要望に答える」「素早い対応」という点において、特に品質保証部門としては重要なこととして、見習わなければいけないことと感じます。



金額面においても、品質面においても顧客に満足していただけるようなものを目指すのは当然のことですが、なかなか相反することが多く、困難ななかで、なんとか良い方法を模索して行きたいと思います。
(品証)



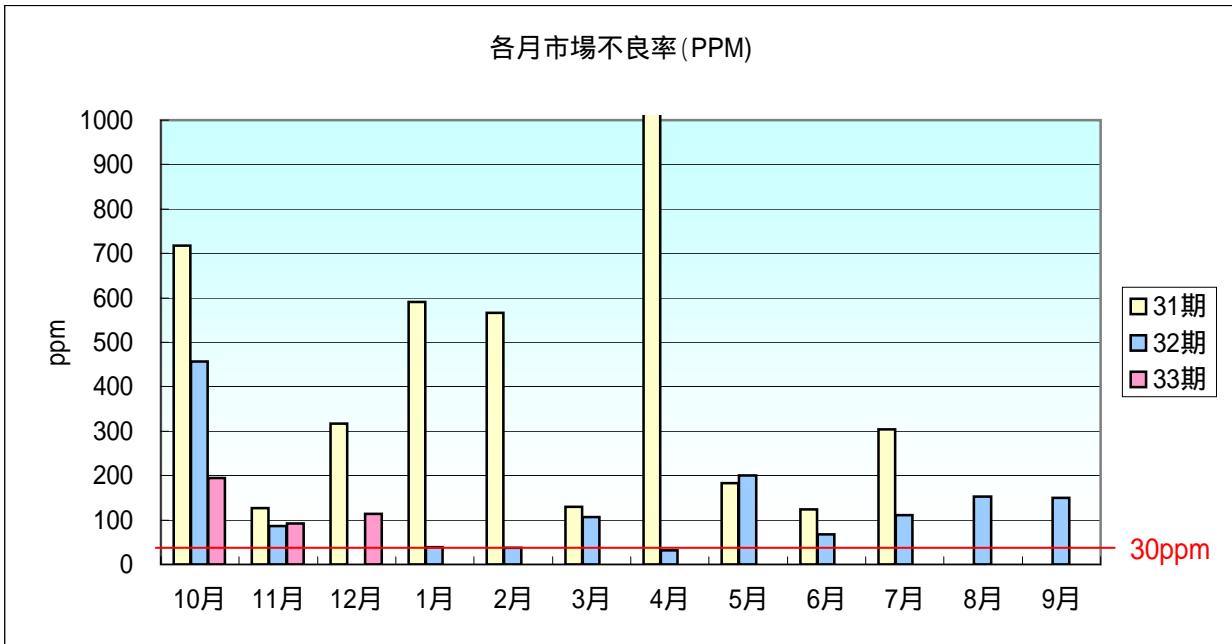
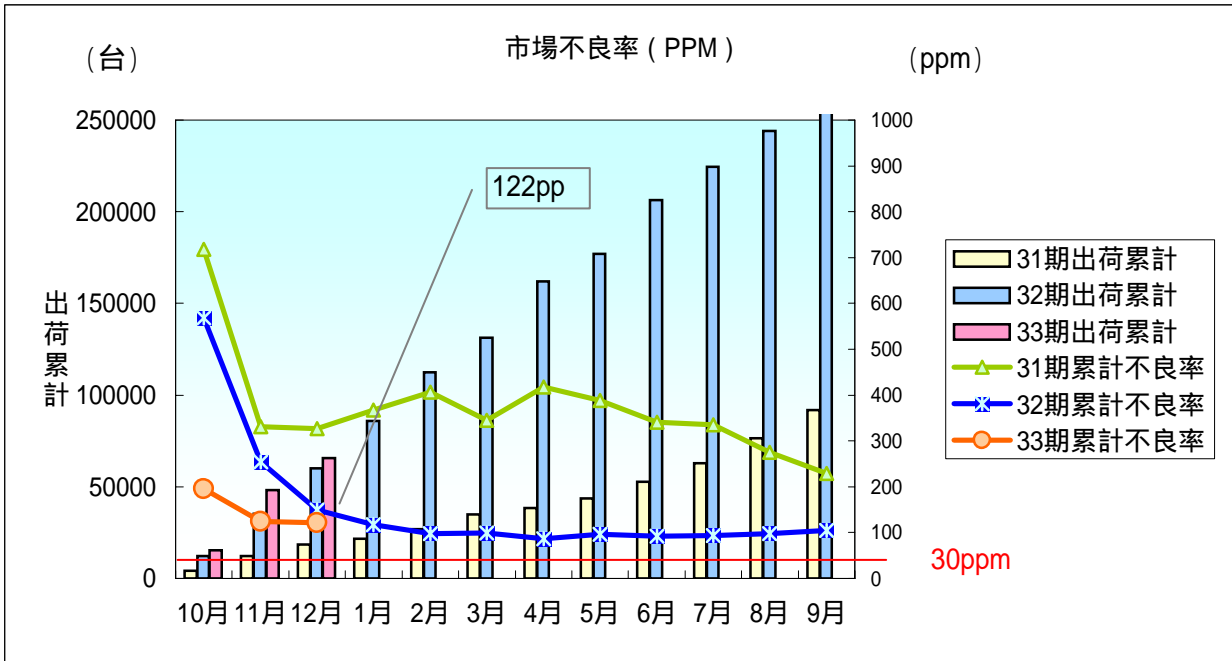
今月の品質状況

33期の旗印

納入不良率 目標……30ppm

33期は30ppm以下を目標にしております。
現時点での累計不良率は**122.00ppm**となっております。

不良率は昨期から横ばい状態が続いております。
この状態から脱却するために、全体の品質に対するさらなる意識向上が必要と思われます。
今後の活動に対する意見等ありましたら提案していただくと幸いです。

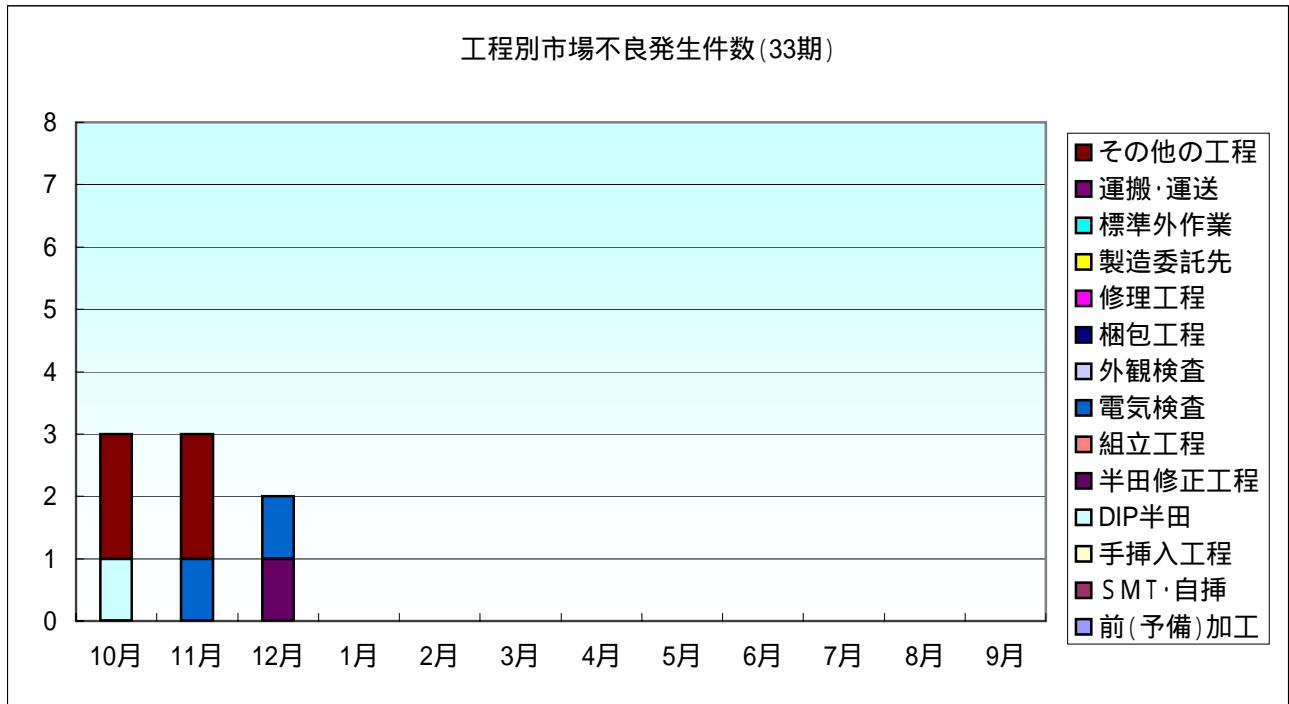


12月の単月不良率は114.31ppmです。

品質状況詳細

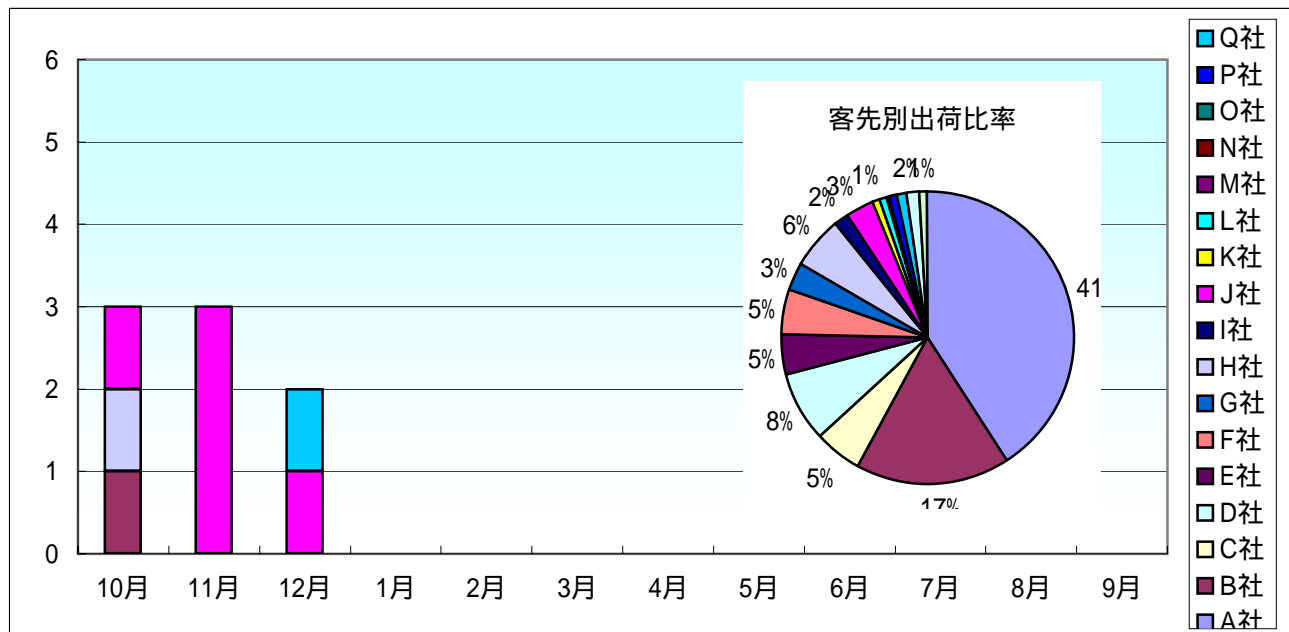
その1) 原因別、並びに工程別市場不良発生状況

工程別不具合



12月発生不良は2件です。
発生工程は電気検査、半田修正工程の2種類。今まであまり発生していない工程ですが、どちらも潜在的な要因があったものと思われます。さらに突っ込んだ分析、対策を実施したいと思います。

客先別不具合



客先別累計不良発生率

J社 5件/2000台 (2500ppm)
Q社 1件/700台 (1429ppm)
B社 1件/3927台 (255ppm)

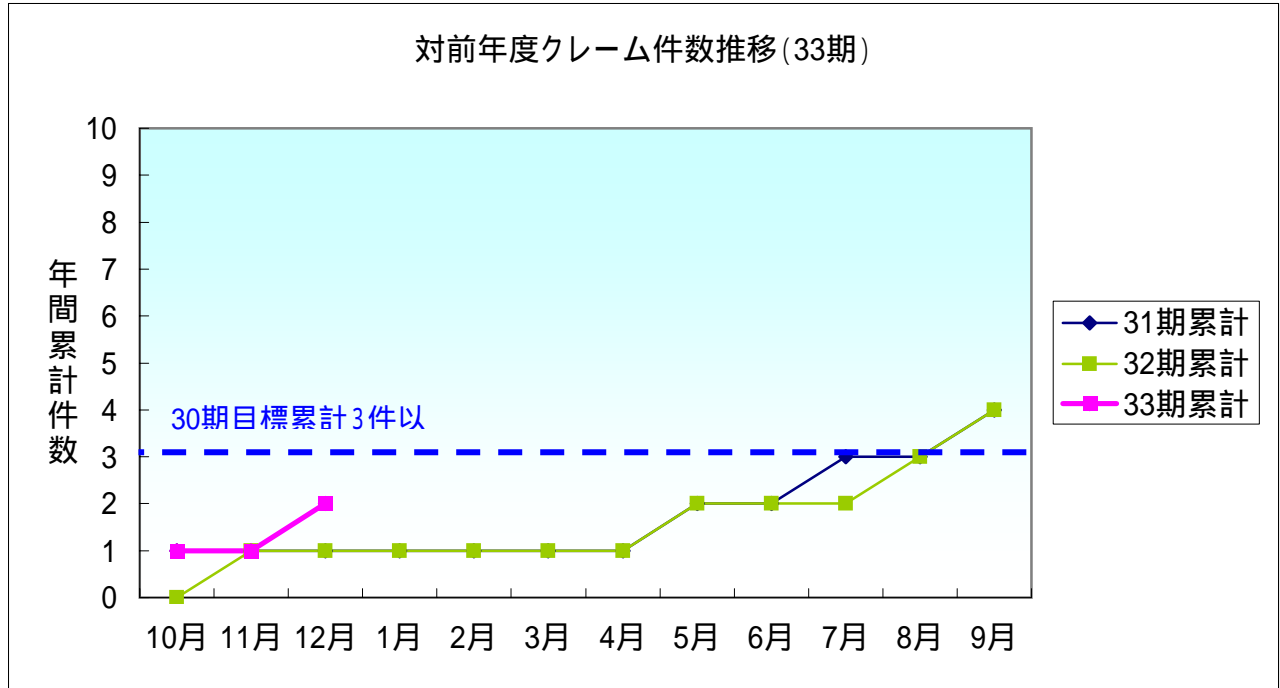
J社、Q社はどちらも12月不良発生しております。

品質状況詳細

その1) クレーム発生推移状況

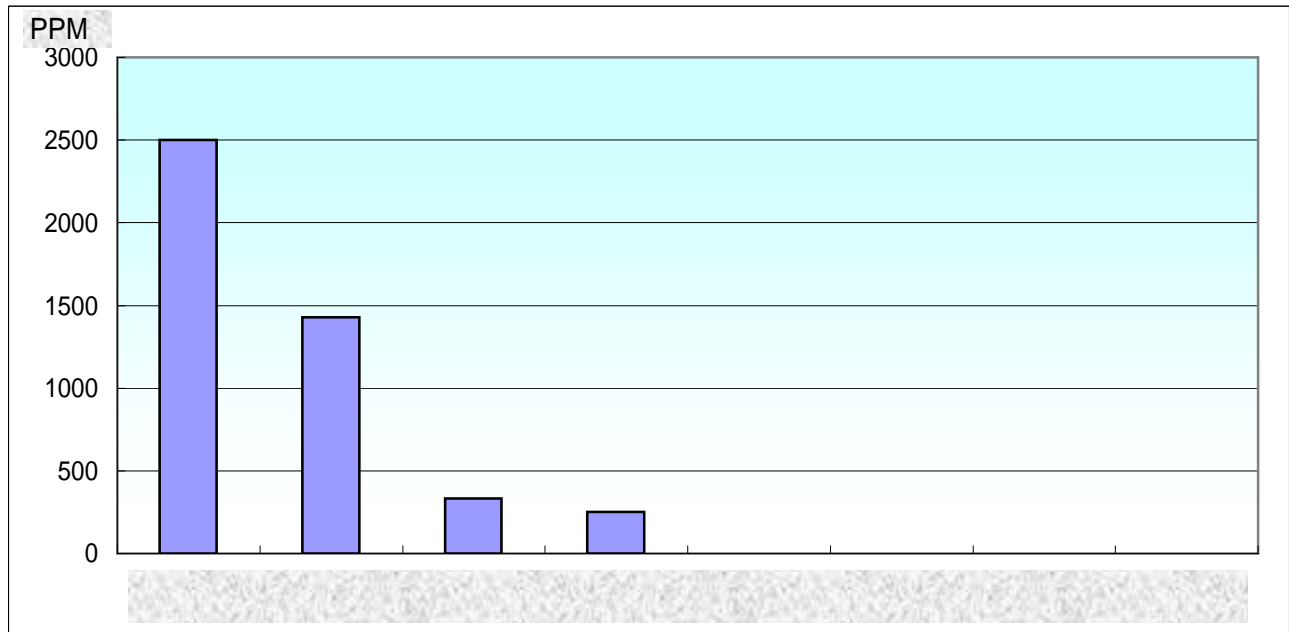
クレーム発生推移

「クレーム」の定義: 当社製品がエンドユーザー様にて使用中に
当社の責任による原因で不具合が発生し、見直し・改修の場合



12月のクレーム不良1件は発生しました。
今期3ヶ月目にして2件目のクレームとなり、昨期に比較して早いペースで発生しております。
クレーム不良が今後増加しないように先手を打って行きたいと思えます。

機種別累計不良率



12月に不良発生した 2機種が特に機種別不良率でも特に目立っており、
今後も生産台数が見込まれておりますので、品質向上の最重要対象機種になります。
全社的に意識していただきたいと思えます。